

魯に兀者の王駘あり。これに従いて遊ぶ者、仲尼と相い若く。常季、仲尼に問いて曰く、王駘は兀者なるに、これに従いて遊ぶ者は、夫子と魯を中分し、立ちて教えず、坐して議せざるに、虚にして往き、實にして帰る。固に不言の教え有りて、無形にして心になる者か。是れ何人ぞやと。仲尼曰く、夫子は聖人なり。死生は亦た大なり。而もこれと与に變ずるを得ず。天地の覆墜すと雖も、亦た將ずこれと与に遺ちず。無仮を審らかにして、物と遷らず、物化を命として其の宗を守るなりと。

【大体の意味内容】

魯の国に、刑罰によつて足の筋を断ち切られた足萎えの、王駘という者がいた。なぜか人望があつて、彼に従つて学究の世界に遊ぶ者の数が、孔子の門下と同じくらいであつた。常季が孔子に尋ねた、「王駘は足切りの刑にあつた身体障碍者ですが、彼について学ぶ者の数は先生の門下生とで魯国を二分します。王駘は立つていても何か教えるわけではなく、坐つていても別に議論をするというわけではないそうです。なのに頭の中が空っぽのままて学びに行ったものが、とても充実したものを得て帰るとか。きつと不言実行の教えを持つていて、形式にとらわれることなくおのずと心に残るものを成す者なのでしょう。いつたいどのような人物なのでしょうか」と。孔子は答えて、「あの方は聖人だ。生と死は存在する者にとつての重大事であるが、あの方はそれと一緒に変化するということがない。たとえ天が覆り地が墜ち込んでも、あの方はそれと一緒に落ちていくということがない。

仮初めのものではない真実を明らかにして、物事の表面的な現象に動揺させられることがない。事物の変化を運命として受け入れ、そうした現象の背後にある宇宙の根本道理を守っているのだ」と言った。

「遊」という語が二度出ていましたが、明らか「」字問する「字修する」意味で使われている。日本語でも古くは、「遊ぶ」と言えは音楽を演奏したり舞を舞ったりするのじやを指しておる、要するに神様と交流することを表しています。

「遊ぶ」は現在は「好きなことをして楽しむ」という意味で使っていますが、確かにこれが根本の意味で、学問とは本来好きなことをトコトン追究したり、あこがれの対象を真似したり、わからないことを問うていたり、体得したことを表現したり、そうやって何か素晴らしきものと交わる実感に浸ることなのでしよう。

ラグビーワールドカップが盛り上がっています。私も詳しくは知らないにわかファンのひとりには過ぎませんが、試合以外のいろんな番組で、日本だけでなく外国チームの選手たちを詳しく紹介したり、インタビューしたりするものを見てみると、何かうたれるものを感じずにはいられません。

試合のシーンだけ見ているとみんな野獣のように見えてしまいますが、素顔の彼らは一様に素朴で、シャイで、紳士で、哲学者です。驚きました。

いわゆる「スーパースター」らしくないのです。この素朴さは何だろうと思ってしまいました。

何かで読んだのですが、彼らの収入は、野球やサッカーのスター選手たちと比べたら十分の程度だそうです。

なるほど。

死人が出てもおかしくないらしい試合をしても金になるわけではない。

それでも命がけでプレーするし、そのためにすべてを犠牲にするような激しいトレーニングを積んで勝つための準備をする。

彼らとはかくラグビーが好きだし、生命を完全燃焼させられる神聖な遊びであり祝祭であるのでしよう。

試合中に危険行為などを巡って乱闘を起こすこともありますが、試合後の「ノーサイド」敵味方解消（「」で両チーム入りの混じりあいの鍋のように鍛え上げられた肉体同士が讃えあう光景は、理屈抜きに泣けてきます。まさに英雄神たちの饗宴です。

国際大会のような大きなイベントやメディアの活躍には、さまざまな利権が生じ金儲けに血眼の者たちが群がりますが、今までラグビーに対して無知だった目を開かせてくれた点は、感謝です。